

「広報くみにみ」が入選

広報紙部門で三年連続の受賞



▲皆さんの笑顔や美しい町の風景など、手に取っていただけるような紙面を目指しています

親しみやすい広報へ

第9回県市町村広報コンクール広報紙（町村部）部門において、県内二位となる入選を受賞しました。同コンクールは、令和5年に発行された広報媒体（応募総数85点35市町村）を対象に実施されました。広報くみにみは、昨年と一昨年に2年連続で佳作（県内三位）を受賞。今回のコンクールではひとつ順位を上げた結果を残すことができました。この受賞は、日頃から取材にご協力いただいている皆さんのおかげです。心より感謝申し上げます。「広報に孫が載って、たくさんの人に声をかけてもらったよ」「子どもたちの笑顔をいつも楽しみにしてるよ」と、広報紙の発行後にはうれしいお言葉をかけていただくこともあります。今後も、町の皆さまの輝く姿や笑顔をお届けし、より多くの方に手に取っていただける広報くみにみを目指します。引き続きご協力をお願いします。

審査員の講評

惜しくも特選は逃したが、審査員の評価は高かった。関係者の皆さんへ丁寧に取材をしたことが読み取れた。認知症は他人事ではないというメッセージを、町民へしっかりと届けることができたのではないだろうか。認知症という重いテーマの特集だったが、笑顔の写真が効果的に使われていて、読み終えた後も暗い気持ちにならなかった。当事者のコメントや手書きの文字など、読者の感情は大きく揺さぶられたと思う。



▲広報紙（町村の部）で入選した「広報くみにみ1月号」

長年の心づかいに感謝

市川公子さんへ感謝の会

約40年にわたり、国見小学校の正面玄関に飾る花を生けてきた市川公子さんが、昨年の12月28日を最後に引退されました。

国見小学校の環境美化のために多大な貢献をされた市川さんへ、これまでの労をねぎらうとともに、全校児童からの感謝の意を伝えるため、2月16日に国見小学校体育館で市川公子さんへの感謝状贈呈式が開催されました。

式では、感謝状が佐藤政俊国見小学校長から市川さんへ手渡されると、紺野愛莉さん（小6）が「つらい時も悲しい時も玄関に飾られたお花を見て、友達と一緒に温かい気持ちで過ごすことができました」と感謝の言葉を述べました。その後、記念品と花束が中條維知さん（小6）と鈴木智子さん（事務補助）から贈呈されました。



▲記念撮影で笑顔を見せる市川公子さん



市川さんは「学校に来る子どもたちやお客さまが、玄関にある花を見てほっとして欲しいという思いで続けてきた。あつという間の40年だった気がします。これまで本当にありがとうございました」と全校児童へ向け、お礼の言葉を述べました。

今後は、菊地美和子さん、菊地富子さん、小西道子さんら3人が市川さんの意思を引き継いで花を生け、国見小学校の玄関に彩りを添えます。



▲市川公子さんの最後の作品（12月28日撮影）

国見の民話 かるた

【ここの通るやつは殺すと内谷の火の玉】

【第十一回】
内谷のひかりもの



内谷に、春日神社という神様がいます。昔から太々神楽のお祭りが盛んで、近くの人たちが集まって、とても賑わっていました。神社の裏手の方は竹やぶになっていて、内谷の西から鳥取に越えるためによく通られていたようです。

むかし、鳥取から越えてきた人たちが、竹やぶの上の方の枝から、ひかりものが下りてくるのを見つけてきました。遠くから見ていると何でもない。しばらくして、大丈夫だと思って近くまで行ってみると、今度は火の玉になって、それから鬼夜叉のような顔になって、「ここを通るやつは、みんな喰い殺してしまおう」というようなことを言いました。

恐ろしくて、そこを通ることができなくなりましたので、皆でお寺に助けを求めに行くと、和尚さんに拜んでもらったところ、やっと通れるようになったそうです。